



RUNNER



◆ 目次 ◆

第5回 特定非営利活動法人
「野生動物救護の会」通常総会……2

今日のRUNNER
メジロ……………4

活動の現場……………6

ボランティア雑感
番外編……………9

保護鳥獣が示す症状……………10

台風4号～サギコロニー崩壊!!…12

Project.WILD……………14

インフォメーション……………16

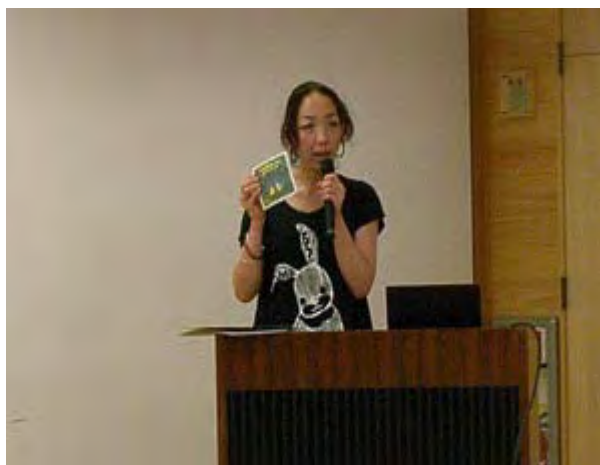
第5回 特定非営利活動法人「野生動物救護の会」通常総会

平成24年6月23日(土) 13時より、神奈川県自然環境保全センターレクチャールームにて会員 総数105名中、出席数74名(本人出席15名 委任状出席59名)で開催されました。

議長三輪早見で議事に入り、第一議案として平成23年度事業報告及び収支決算について、平成23年度財産目録、収支計算書、貸借対照表の内容報告、質疑応答

を行い満場一致で承認されました。

続いて第2議案として平成24年度事業予定及び収支予定として、普及啓発活動用絵本作成と秦野図書館衝突調査のプレゼンテーションが行われ、満場一致で承認されました。最後に第3議案として平成24年度の役員承認が行われ、満場一致で承認されました。



作成予定の絵本についてプレゼンテーションする平沼氏

【2011年度 NPO 法人「野生動物救護の会」活動報告】

1. 傷病鳥獣救護の直接的活動

傷病鳥獣の救護ボランティア	通年	自然環境保全センター
短期、長期の野生動物の飼養	通年	各自自宅

2. 救護ボランティアを養成する活動

野生動物救護ボランティア講習会 ボランティア講習会修了式	5/21~5/22 9/25	自然環境保全センター
---------------------------------	-------------------	------------

3. 主に会員を対象とした啓発活動

探鳥会	6/4 7/9	宮ヶ瀬湖周辺 自然環境保全センター周辺
特別講演会 「歌と野鳥にまつわる楽しい話」 永井真人氏 (♪鳥くん)	6/26	自然環境保全センター
ツミ2羽公開開放野	7/23	自然環境保全センター
チョウゲンボウ公開開放野	10/18	座間市
第2回スキルアップ勉強会「保定」	4/17	自然環境保全センター
第3回スキルアップ勉強会「さし餌」	6/19	
第4回スキルアップ勉強会「餌の作り方」	7/23	

4. 主に市民を対象とした啓発活動

動物フェスティバル神奈川2011 in 鎌倉参加	10/16	鎌倉海浜公園(由比ヶ浜)
ジャパンバードフェスティバル参加	10/22~10/23	我孫子市手賀沼親水公園
2011 あつぎ環境フェア参加	10/30	厚木市中央公園
はたの市民まつり参加	11/3	秦野市中央運動公園

環境教育 厚木市立清水小学校 5 年生 173 名「森林の環境と生き物」 夏休み体験教室「野生動物を学ぶ」小学 4 年～6 年生 春休み体験教室「わくわく野鳥探検隊」小学 4 年～6 年生 放課後教室 傷病舎見学の案内 東林間野鳥の会 20 名 厚木市立厚木小学校 3 年生 149 名 厚木市立戸室小学校 4 年生 103 名	5/12 7/28、8/27 3/24 10/11、1/20 5/25 6/30 9/27	七沢自然ふれあいセンター 自然環境保全センター 自然環境保全センター 厚木市立相川小学校 自然環境保全センター 自然環境保全センター 自然環境保全センター
平成 23 年度あつぎ協働大学「実践科目」にて活動紹介 あつぎ協働大学「実践科目」実習	2/16 3/1	厚木市勤労福祉センター 自然環境保全センター
桂川・相模川流域協議会会報誌に掲載「傷ついた野生動物と向き合って」	4 月	
「第 8 回野生動物保護セミナー in 関東」で渡辺理事長講演	11/5	東京農大厚木キャンパス
「島根県野生鳥獣救護講習会」で渡辺理事長講演	2/14	島根県厚生年金会館

5. 情報発信的活動

会報誌 RUNNER Vol.10 発行 会報誌 RUNNER Vol.11 発行	4/5 12/19	厚木市サポートセンター
ホームページの運営 会員への情報発信	通年 通年	野生動物救護の会事務局

6. 調査・観察的な活動

秦野市立図書館衝突調査	4/22、5/27、6/23、 7/29、8/26、9/30、 11/25、12/16、 1/27、2/24、3/30	秦野市立図書館
「保全センターの樹洞性哺乳類の調査と講習会」安藤元一先生 「樹洞性哺乳類の調査」のためムササビ用巣箱設置 「保全センターの樹洞性鳥類の調査と講習会」藤井幹氏 「樹洞性鳥類の調査」のため小鳥用巣箱作成と設置 巣箱を設置してのフクロウの営巣観察	10/9 12/18 1/14 2/13 通年	自然環境保全センター 丹沢の東側

7. 関係団体との協働的活動

丹沢大山ボランティアネットワーク総会	4/3	自然環境保全センター
WRV リハビリテーター施設見学会 野生動物救護ボランティア&WRV リハビリテーター交流会	7/9	自然環境保全センター
平成 23 年度第 1 回傷病鳥獣保護連絡協議会	8/23	神奈川県横浜合同庁舎

8. 運営的活動

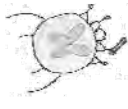
NPO 法人 野生動物救護の会定期総会	6/26	自然環境保全センター
大掃除&豚汁大会	12/18	自然環境保全センター

9. その他の活動

秦野市市民活動サポート事業成果報告会	5/21	秦野市保健福祉センター
新 A・B・C 小屋建築	1/28～3/31	自然環境保全センター

10. 野生動物救護の会に関する出来事

(財) 日本鳥類保護連盟より「野生生物保護功労者感謝状」を受ける	6/1	秦野市役所
タウンニュース「人物風土記」に渡辺理事長が掲載される	6/11	タウンニュース
TVK「野生動物救護の最前線」取材 TVK「野生動物救護の最前線」放映	9/8 9/25	保全センター、渡辺家自宅
「BIRDER」の「野鳥救護の現場から」取材 永井真人氏（♪鳥くん） 「BIRDER」3月号に「野鳥救護の現場から」掲載	11/15 2/16	自然環境保全センター
「田んぼの生きものたち ツバメ」佐藤信敏氏出版 農文協発行	1/20	



今日のRUNNER



第十四走者：メジロ

ここでは保全センターに運び込まれた傷病鳥獣について保護記録やエピソードを交えてご紹介します。

かごの中の鳥たち

自然環境保全センター（以下、保全センター）では時折、違法飼育された鳥獣が保護されます。その中でも取り分け多いのがメジロです。今年も十数羽のメジロが違法飼育個体として保全センターに運び込まれています。

現在、傷病鳥獣を含め野生動物を許可なく捕獲することは「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律（以下、鳥獣保護法）」で禁止されていて、救護・飼育を行うには地方自治体の許可が必要となります。

鳥獣保護法

そんな鳥獣保護法ですが、もともとは「保護」のためではなく「狩猟」のための法律でした。当時の鳥獣保護法（鳥獣猟規則）はすべての鳥獣が狩猟対象で、狩猟における事故や誤射による人身事故、私有地への不法侵入を防止するための「狩猟のルール」として、1873年（明治6年）に作られた規則でした。

「狩猟についての法律」が「鳥獣保護に関する法律」に転換し始めたのは1892年（明治25年）のこと。それまではすべての鳥獣が狩猟対象であったのに対し、ツル各種、ツバメ各種、ヒバリ、シジュウカラ、ホトトギス、キツツキ、ムクドリなどが保護鳥獣として指定されました。その三年後の1895年に「狩猟法」が整備されました。この狩猟法はたびたび改正され、1918年（大正7年）に「狩猟鳥獣を除いて、原則としてすべての鳥獣の狩猟を禁止する」と改正されて以来、鳥獣保護区の設置や罰金、懲役刑の導入など、鳥獣保護への関心が持たれ、1963年（昭和38年）に「鳥獣保護法」の基本的な形が整いました。



愛玩飼育制度と違法飼育

鳥獣保護法が「狩猟」から「保護」の法律に転換したとはいえ、野鳥をペットとして飼うこと（愛玩飼育）はつい最近まで行われてきました。「野鳥をペットとして飼うことは好ましくないことである」として1950年（昭和25年）に、指定された7種類を除く野鳥の愛玩飼育が禁止されました。その後徐々に種類を減らし、2007年（平成19年）にはメジロ1種のみ、1世帯1羽のみ認められることとなりました。また、2012年4月から、メジロの愛玩飼育も原則として禁止されることとなりました。

地方自治体の許可なく捕獲、飼育、販売を行った場合には、鳥獣保護法により最大1年の懲役または100万円以下の罰金が科されます。

表：愛玩飼育可能な種数と種名

年度	種数	種名
1950-1978	7	ヒバリ、ヤマガラ、メジロ、ウグイス、ホオジロ、ウソ、マヒワ
1979-1979	5	メジロ、ウグイス、ホオジロ、ウソ、マヒワ
1980-1998	4	メジロ、ホオジロ、ウソ、マヒワ
1999-2006	2	メジロ、ホオジロ
2007-2011	1	メジロ
2012-	-	原則として禁止

○図鑑○ NO.14

・メジロ *Zosterops japonicus*

メジロ類メジロ科

体長 11.5 cm、上面は暗黄緑色、目の周りは白く、喉は黄色、下面は褐色または灰白色。細いくちばしを持った小形の鳥で、雌雄同色。昆虫やクモのほかには花の蜜や熟した木の実を好む。春にはツバキ、ウメ、サクラ等の花蜜を吸い、秋には熟したカキに集まる。細い横枝のまたの部分におわん形の巣を吊り下げる。

全国の丘陵から山地の林に住むが、市街地の公園や庭にも来る。本州北部から北海道にかけては夏鳥としてまれに見られ、冬は南方に移動するものもある。

メジロ科の鳥は 14 属 100 種が確認され、日本産のメジロ (*Zosterops japonicus*) は 8 亜種が確認されている。

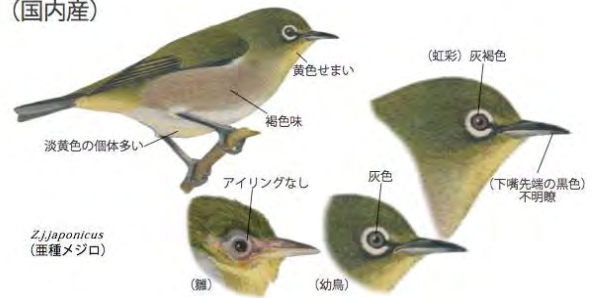
※参考文献
 ・高野伸二著：フィールドガイド日本の野鳥，日本野鳥の会
 ・茂田良光著：世界のメジロ図譜 改訂版，全国野鳥密猟対策連絡会
 (<http://www008.upp.so-net.ne.jp/mittairen/mejiro/mejirozufu.pdf>)

メジロの見分け方

鳥学の進展により、同種であっても日本産亜種か外国産亜種かを識別できるようになってきました。メジロ (*Zosterops japonicus*) は 8 種類の亜種が確認されており、そのうち日本で見られる亜種は 6 種類です。ここではメジロの国内産亜種と外国産亜種の識別ポイントを紹介します。

- ①胸と脇の色はなに色か？
- ②上面の色はなに色が強いか？
- ③ふしょ長（足の長さ）と全頭長の比率は？

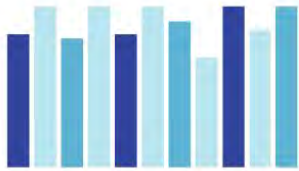
(国内産)



日本産亜種はリュウキュウメジロが最小（ふしょ：17-19mm，全頭長：29-32mm）で、外国産亜種はさらに小さい。外国産亜種であるハイナンメジロはヒメメジロよりも小さく、最小である。

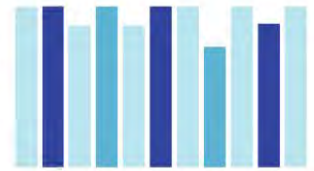
表：メジロ (*Zosterops japonicus*) の亜種とその見分け方

	和名	学名	①	②
日本産亜種	メジロ	<i>Z. j. japonicus</i>	赤褐色味がある	緑色味が強い
	シマメジロ	<i>Z. j. insularis</i>		
	シチトウメジロ	<i>Z. j. stejnegeri</i>		
	イオウジマメジロ	<i>Z. j. alani</i>	灰白色	
	リュウキュウメジロ	<i>Z. j. loochooensis</i>		
	ダイトウメジロ	<i>Z. j. daitoensis</i>		
外国産亜種	ヒメメジロ	<i>Z. j. simplex</i>	灰白色	黄色味が強い
	ハイナンメジロ	<i>Z. j. hainanus</i>		



活動の現場

このコーナーでは普及啓発活動やイベントなどに参加したボランティアがその体験をもとにレポートしています。



春休み子ども体験教室 報告

3月24日に「わくわく野鳥探検隊」と題して小学校4年生から6年生を対象に子どもたちに野生動物について楽しみながら学んでもらいました。内容の一部をご紹介します。

- ・野鳥観察
はじめて手にする双眼鏡、使い方から学び自然の中にいる小鳥のかわいい姿に足が止まります。保全センターの周辺をハイキングしながら野鳥を観察しましたが、圧巻は鉄塔に翼を休めに来たオオタカ、子どもたちだけではなく、大人も大興奮！小鳥・オオタカ・カモ類と沢山の自然の鳥たちが見ることができました。
- ・野生動物とのふれあい
傷病舎で保護しているタヌキのプルプルちゃんや、ゴイサギくんを抱っこしたり触りしながら 何故、野生に帰れなくなってしまったか感じてもらいました。
- ・羽しおり作成
1枚の野鳥の羽を使ってしおりを作りました。鳥のイラストを描く子どもたちの顔は真剣そのもの。

参加者からの感想

今回参加して下さった皆さん、そしてスタッフの皆さん、ご苦労様でした。前日まで雨が心配されていましたが、午前中は何とか天気ももってくれて野外で野鳥観察ができ、ひとまず安心しました。大人も子どもも一緒になって夢中で双眼鏡やスコープを覗いている様子を見て、今回の企画に関われて良かったなあと思いました。
野鳥たちの生き生きとした姿を見て、子どもたち諸君には何を感じてもらえたでしょうか？みんな、野鳥に詳しくて（僕以上かも?!）終始びっくりしっぱなしでした。これを機会にもっと双眼鏡に慣れて、いろんな野鳥を探しに外へ探検に出かけてもらえたら嬉しいです。そしてその探検にいつか誘ってもらえたらもっと嬉しいです。ありがとうございました！



東京農業大学ボランティア論講演 報告

4月24日東京農業大学の安藤先生にお招きいただき、約100名の学生（農学部 バイオセラピー学科 1年生）を対象に「ボランティア論」の授業にて「野生動物とボランティア」という題目で講演をさせて頂きました。安藤先生より救護の会をご紹介いただいた後、当日参加した会員4名が分担してスライドや動画を使って講演しました。まず最初に渡辺理事長の挨拶、次に安井氏が神奈川県における野生動物の救護状況を実例を交えて説明しました。その後、神崎氏より自然環境保全センターの野生動物救護ボランティア制度についての説明と実際の活動内容の話、続いて黒谷氏から野生動物救護の会としての様々な活動内容の説明、特に秦野図書館における衝突調査については 今までの実績や今後の展望なども含めて話しました。最後に渡辺理事長から、回復した野生動物の放野の実例と、猛禽類のリハビリの様子を苦労話なども交えながら説明した後、渡辺家で長期飼養中のコミミズクのロンくんを披露しました。

学生さんたちは、私語もなく真剣な表情でそれぞれの話に耳を傾けてくださり、次々に映し出される野生動物たちの写真を興味をもって見てくれていたように感じました。最後にロンくんが登場した際には「ワ〜！」と大きな歓声があがり、皆さん興奮した様子でした。授業終了後には大勢の学生さんたちがロンくんを取り

囲み、代わる代わる写真撮影を行うような状況で、やはり生体の持つインパクトは大きな物があると実感しました。

今回、野生動物の置かれている厳しい現状と、救護の会がボランティアとしてどのように野生動物と関わっているかについて講演させていただきましたが、私たちの話を聞いて、若い学生さんたちが少しでもこの分野に興味を持ってくれたらとても嬉しいことだと思います。

このような貴重な場を提供してくださった安藤先生に、改めてこの場を借りて深く感謝申し上げます。

以下は聴講してくれた学生さんの感想の一部です。

- ・ 私たち一人一人の意識を少し変えるだけで助かる野生動物が沢山いると思うので、これから意識して生活したいと思います。
- ・ 実際に野生動物救護の活動をしている方々の話を聞くと学ぶことが多く、自分も日常注意しようと思いました。またそういった活動を行う中でいろいろな経験が出来ると思うので自分も参加させて頂きたいと思いました。
- ・ 今までボランティアと聞いたら、人に対してしか考えたことがなかったが、動物に対しても出来ることはあるのだなと思った。動物が野生に帰って行く姿はやっぱり良いものだなと思った。
- ・ 人間にとって便利なことが、動物にとっては危険なことだったりするので難しいなと思った。



平成24年度 野生動物救護ボランティア講習会 報告

平成24年度野生動物救護ボランティア講習会が神奈川県自然環境保全センター・神奈川県獣医師会・野生動物救護の会、3団体共催で開催されました。今年も応募人数30名のところ、多数の方々の応募があり55名の方に受講していただきました。

初日は、野生動物救護に携わるのに必要と思われる大事な知識や法規をそれぞれ専門分野の先生方に講義していただきました。2日目午前中の講義の中では、先輩ボランティアの経験談と、実際の活動内容など生の声もみなさんにお話する事ができたかと思えます。午後は、5つのグループにわかれて実習を行いました。救護された動物の搬送方法・さし餌の仕方・傷病舎の見学・多種多様な啓発活動や調査研究などいろいろと学べたのではないかと思います。

受講者のみなさん2日間にわたりお疲れさまでした。これから9月29日（予定）の修了式に向かい自主研修期間になると思いますが、先輩ボランティアみんなで応援してます!! 自分のペースで、がんばって下さい。野生動物たちのために、一人でも多くの仲間が増える事を祈ってます。

最後に準備期間もふくめ、多くのボランティアさんのご協力に感謝しております。本当にありがとうございました。これからもご協力のほど、よろしくお願いします。



よこはま動物園ズーラシア園長、日本大学生物資源科学部教授の村田浩一先生の講座

横浜市立よこはま動物園ズーラシア動物病院獣医師 東野晃典先生

元神奈川県獣医師会会長 獣医師中山和也先生

自然保護公園部 濱名成之部長

野生物課 羽太課長

野生物課 荒木獣医師



実習の様子

先輩ボランティアの体験談

キジバトの公開放野

放課後子ども教室 報告

5月18日と6月22日の2回にわたり、厚木市立相川小学校において「放課後子ども教室」を行いました。この催しは、厚木市のこども育成課が行っている事業で、小学生の放課後の時間を使い、児童に地域社会と関わりながらいろいろな体験をしてもらおうとの趣旨で行われています。この事業の講師役として野生動物救護の会も招かれ、今回で3回目、4回目の開講となりました。

5月18日は、3～6年生の17名が参加してくれましたが、子どもたちの集合に時間がかかり、開始時間が10分ほど遅れてしまいました。そのため、予定していた内容をすべてを消化することが出来ず、次回への反省点となりました。コミミズクのロン君の挨拶から始まり、生息地図と動物カードを使い野生動物がどのような場所に暮らしているのかを子どもたちに考えてもらいました。次にパネル写真を使って、怪我の原因を子どもたちの意見を元に解説し、巣立ちビナの誤認保護防止についてもお話しました。最後に消しゴムで作られた動物の足跡のハンコを各自好きなようにカードに押し、オリジナルの葉を作り持ち帰ってもらいました。

6月22日は、1～2年生24名の参加がありました。ロン君の挨拶の後に、数種類の野生動物の足跡を見てもらい、それが何の動物の足跡かを当てる「足跡クイズ」を行いました。次に保全センターに保護されているタヌキの幼獣と、数種の鳥のヒナを実際に見てもらい、巣立ちビナの誤認保護防止の理解を促しました。そして、前回好評だった足跡スタンプを使ってポストカードを各自で作成し、最後に「手のひらを太陽に」の歌の歌詞を「野生動物と仲良くしよう！」という内容の替え歌にしてみんなで合唱して終わりました。

この「放課後子ども教室」は今後も継続して行われる予定です。

5月18日



6月22日



総会 + 特別講演

6月23日13時より神奈川県自然環境保全センターレクチャールームにて、2011年度特定非営利活動法人野生動物救護の会通常総会が開催されました。（詳しくはP2-3参照）

そして総会後に公益財団法人日本野鳥の会理事 松田道生氏による特別講演「カラスから学ぶ～東京都の捕獲対策の検証と野生動物とは何かを問う」が開催されました。40名もの参加があり関心の高さがうかがえました。最初にカラスの常識問題として12の質問がされ、答え合わせをしてみると以外と知らないことや思い込みが多いことが分かりました。

例えばハシブトガラスは一夫一妻制であったり、卵が青みがががっているなど…。悪いイメージのあるカラスですが、間違ったイメージが先行していたり、人間が要因となって数が増え、またゴミの出し方の変遷により被害拡大したなど、私たちの生活も見直す必要があり、カラスとうまく共存していきたいと実感した講演でした。

参加された方から感想が届いていますので紹介いたします。

- ・動物の立場から見る、人間の価値観の押しつけ 刷り込みに改めて気づかされた。
- ・身近にいますが、カラスだけでなく野生動物と人間社会との共存していくのに、私たちも、もっと考えていかないといけないと思いました。
- ・具体的に調べられた数を示していただき、説得力がありました。
- ・害鳥ということで嫌われているカラスですが、今回の講演会で、そもそもは人間の生活スタイルの変化に合わせてカラスたちがそこに適応してきたことがよく分かりました。他の野生動物との付き合いかたも同様に考えながら、自分達の生活を見直してみる良い機会になったと思います。



ボランティア雑感

～番外編～

自然環境保全センター野生生物課に2012年度より新しく羽太博樹課長と荒木尚登獣医師が赴任されました。
5月19日(トークの日)に行われた、ボランティアによる突撃インタビューをお届けします！



羽太 博樹 課長

野生生物課の仕事は、皆さんと一緒に取り組んでいる「野生動物救護」とシカやサルなどの「野生動物保護管理」という2つの柱があります。その両方が上手く進むよう、何かにつけてジタバタするのが私の係です。

休みの日は月に一回、皆で丹沢のツキノワグマの痕跡探しと、クマが食べる木の実の豊凶調査(豊作か不作か)を行っています。季節を替えて同じ山を歩くと毎回大きな変化にビックリ！一風変わった山歩きです。



荒木 尚登 獣医師

野生生物課で傷病鳥獣救護担当をしています。一応獣医師です。ボランティアの皆様のご窓口も務めさせて頂いています。まだ顔と名前が一致していないので、温かい目で見守って頂ければ幸いです。

子供は女の子3人(小6、小1、もうすぐ3歳)で、保育園へ迎えに行っています。女系家族なので、ときどき男の子とも遊びたくなります…。

ご趣味は何ですか？ 宝くじで1億円当選しました。 どのように使いますか？	山歩きと旅 程よい田舎で、手頃な山と畑を買いたいです。	海釣り(主に船) 程よい田舎に住み、海釣り出来るような小屋を建てたいです。それでもまだ、余るなあ～。
今までに観た映画や本で感動した作品はありますか？	すぐ感動しちゃうのでいっぱいあります^^ とりあえず・・・、劔岳 点の記(著者:新田次郎)、キャラバン(監督:エリック・ヴァリ)、千と千尋の神隠し(監督:宮崎駿)	塩狩峠(著者:三浦綾子)
この曲を聴くと元気が出る！ と言う曲はありますか？	クジラ12号(JUDY AND MARY) 君が僕を知っている(RCサクセッション) 日曜日よりの使者(ザ・ハイロウズ)	山下達郎の曲 いつか王子様が(ジャズアレンジ)
ストレス発散方法を 教えてください。	歩いたり、音楽を聴く等、好きな事をする。 家族や気を許せる友達と、楽しく話をする。	タバコを吸うぐらい！
ボランティアに対するご要望 等ございましたら、教えてください。	お互いに言いたい事は言いつつ、辛抱強く、寛容な心で、仲良くやっていきましょう。	「先生」と呼ばないで、「荒木さん」 でお願いします。
最後に一言お願いします！	「動物」を相手にしているようでいて、実は、その向こう側にいるたくさんの人の「心」に関わる仕事。皆さんを含め、多くの方との一期一会を大切にしたいです。	1 からのなので、宜しくお願いします。 一緒に頑張ります！

レテラント・似顔絵：武田

荒木獣医師、羽太課長、インタビューのためにお忙しい中時間をつくって下さり、誠に有難うございました。
これからも、どうぞ宜しくお願い申し上げます！

保護鳥獣が示す症状

保全センターでは日々多くの傷病鳥獣を受け入れています。いろいろな保護原因がありますが、特徴的な症状が見られるものが多いです。これらをしっかり確認する事は、持ち込まれた動物の状態把握や、保護原因の推測に役立ちます。

保護原因

保全センターでの保護原因は主に以下のものに分かります。

- ①イヌ・ネコ・カラス・他(動物)に襲われた
- ②巣から落ちる(①を除く) 巣から落下
- ③転落・衝突(崖からの転落・水路への転落・建物、電線、ガラス窓等への衝突)
- ④交通・鉄道事故
- ⑤網、釣り糸等
- ⑥わな等捕獲行為(密猟・駆除)
- ⑦誤認保護(巣立ちヒナを「はぐれた」と誤認等)
- ⑧違法飼育による持ち込み
- ⑨中毒・汚染(薬物・鉛・油・粘着剤・他)
- ⑩伝染病・寄生虫症(疥癬^{かいせん}・ジステンパー・他)
- ⑪その他(悪天候等①～⑩以外の原因)
- ⑫不明

これらの原因のうち、保護件数の多いものを中心に特徴的な症状や所見について話をしていきたいと思えます。

イヌ・ネコ・カラス・他(動物)に襲われた

小型の鳥類がネコに襲われるケースが多いです。大きな傷があればすぐに気付くでしょうが、羽毛に被われていると一見無傷に見えることもあります。毛をかき分けてみると咬傷が見つかる事が多いです。

また、小さな傷でも爪や牙が深く入っていると、内臓を傷つけている事も多く致命的な事もあるため、他の保護原因よりも死亡率が高く放野率が低いというデータもあります。

表面的な傷の大小よりも深さの方が重要な事が多いので、小さな外傷でも見逃さないように、全身を注意深く確認する事が大切です。



ネコに襲われたムクドリの巣立ちヒナです。一見すると外傷などは見えませんが…。



羽毛をかき分けてみると外傷が見つかりました。見た目はそれ程大きな傷ではないですが、深さはわからないので注意して経過をみる必要があります。

転落・衝突

鳥類が窓ガラスに衝突する事が多いです。衝突の衝撃により翼や脚を骨折したり、頭部を強く打ちつけたために脳神経症状を示す個体が多いです。また、口や耳などから出血が見られる事もあり、その様な個体は肺出血や脳出血が疑われ、予後は悪いケースが多いです。



衝突により持ち込まれた鳥たちです。

左：チョウゲンボウ 左右の翼の位置を比較すると右翼が下垂しているのがわかります。下垂している方の翼の骨折や脱臼などを疑う所見です。

右：ハイタカ 目に注目してください。左右の瞳孔の大きさが異なっています。また、目に光を当てると対光反射(光を当てると瞳孔が小さくなる反応)が低下、消失している事もあります。これらは脳神経の異常を意味しています。



衝突により持ち込まれたキジバトです。平衡感覚が正常な鳥は、体が回転しても頭部を一定の位置に保とうとします。しかし、このキジバトは体の回転に対して頭部も一緒に回転しており、内耳の三半規管の異常が疑われます。左目からの出血もみられ、頭部を強く打ちつけた事が伺われます。

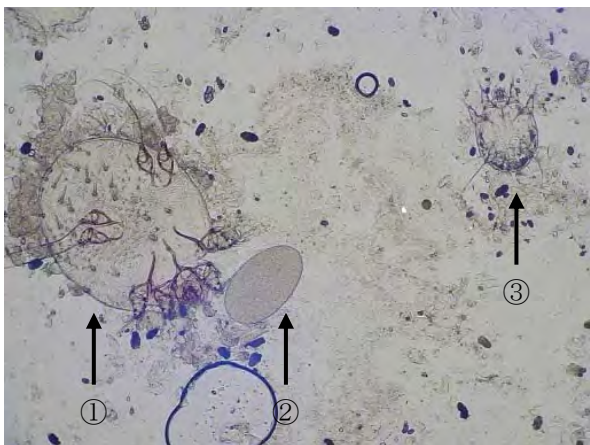
伝染病・寄生虫症

ほとんどが疥癬のタヌキです。かなり重症化したものが持ち込まれる事が多く、衰弱が激しい個体が目立ちます。

疥癬の特徴は、皮膚の脱毛と痂皮（かさぶた）などの様な皮膚表面の乾燥・凝固した物質）形成です。特に重症例では、ほぼ全身での脱毛と非常に厚い痂皮形成が見られ、外観をただで疥癬だとわかる程です。痂皮を光学顕微鏡で観察することで、原因となるヒゼンダニを確認できます。



疥癬のタヌキです。広範囲に及ぶ脱毛と痂皮形成が見られます。



痂皮を顕微鏡で観察するとヒゼンダニが確認できます。写真の①は成ダニ、②はヒゼンダニの卵、③は幼ダニです。成ダニと幼ダニでは脚の数が異なります。

その他・不明

この様に、様々な原因で保全センターへ持ち込まれる保護動物ですが、中には原因がはっきりしないものも少なくありません。ただ、そんな場合でも動物が示す症状から、状態の把握や原因の推測ができる場合もあります。例えば、保護された鳥で皮下気腫（皮膚の下に気体がたまる病気）が見られれば、多くは気嚢破裂を起こしています。激しい衝突や、他の動物に襲われるなどの物理的な要因で気嚢破裂・皮下気腫を起こしていることが考えられます。

また、衰弱の激しい個体では脱水や貧血などが見られることも多く、その程度を知ることは治療をする上でとても重要です。



皮下気腫のツバメです。気嚢（鳥類に特徴的な呼吸器官）が破れてしまったため、頭の後ろから背中にかけて皮下に空気がたまり膨らんでいます。



フクロウのヒナです。左は巣から落ちた個体、右は誤認保護の個体です。左の個体は右に比べて眼球が落ち窪んでいます。これは中程度の脱水状態であることを示しています。長時間何も口にしていなかったのでしょうか。

今回紹介した保護された動物の症状は、どれも見た目で見えるものばかりです。動物は言葉をしゃべってくれないので、彼らの異常に気づくためには、第一に目で見て異常を感じる事が重要だと思います。もちろん、見た目だけではわからない事も多くあるので、それだけでは状態を把握する上で十分ではない場合も少なくありません。しかし、目で見て確認できるものにも重要な情報がたくさんあります。そして、動物の状態がある程度把握できれば、その後の必要な対応も自ずと決まってくる。

みなさんも、野生動物たちの声なきメッセージを感じ取ってあげてください。

参考文献

神奈川県傷病鳥獣保護記録表

<http://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/15856.pdf>

野生動物救護の会ホームページ

<http://www.kanagawa-choju.sakura.ne.jp/neko/neko.html>

台風4号～サギコロニー崩壊！！

みなさん、2012年6月19～20日、何があったか覚えていますか？え～何かあったっけ？ではありませんよ！あの日、日本列島は台風4号に見舞われて大変だったじゃないですか！！お仕事帰りの方は、電車が止まってしまい、家に帰るのにも一苦労したなんて方がいらっしゃるのではないのでしょうか？家にいても安心できなかった方もきっといることでしょう。あの日、家にいても安心できなかったのは人間だけじゃないんですよ…。

19日夜～20日未明に日本列島を横断した台風4号は、まさに台風一過といった今年初の真夏日を20日にもたらしました。

そんな天気の良い日に、この季節に、傷病鳥獣に関わっている人が心配することはただ一つ…。

(なんか運ばれてくるんじゃないかな…。)

以前運ばれてきた大量のミズナギドリたちを思い出す方も多いのではないのでしょうか(本誌vol.3参照)。

そうなんです、今回もやっぱり運ばれてきました。大量に。でもそれはミズナギドリではなく、今回はサギたちでした。



<ゴイサギ幼鳥>

今回運ばれてきたメインの鳥はゴイサギの幼鳥。サギといえばコロニーを作ることが有名ですが、小田原市内にあったコロニーが台風により崩壊してしまい、まだまだ巣立ちにはほど遠いヒナまで高木にあった巣から落ちる運命となりました。

午前中の方にアオサギ2羽が運ばれてきたと思いきや、夕方3～4時ごろには大量のサギたちが保全

センターに運ばれてきました。様々な方々が協力して運んできてくださり、最終的にはゴイサギ24羽、アオサギ3羽、ダイサギ1羽の合計31羽のサギたちと、これまた台風で飛ばされてきたと思われるウミネコ2羽が保全センターで保護されることとなりました。

来た直後はてんやわんや。一時的にタヌキを別の部屋に移動してヒナたちの部屋を作ったり、餌である魚のすり身を作ったり、ヒナたちを入れる段ボールやタオルを用意したり…。



<(左から)ダイサギ、ゴイサギ、アオサギの幼鳥>

特にまだ小さいヒナや弱っているヒナには魚をすりおろしたエサをチューブでさし餌する必要があり、大量にこれを作るにも人手が必要です。また、濡れると体力を奪うため、タオルを換えたり、さらには野外ではその声もさることながら公害とまで言われることがあるこの糞を掃除する必要もあります。この日ばかりは普段違う仕事を行っている保全センターの職員さんたちも午前中から手伝ってくれました。サギのはニワトリと違い、エサを吐きもどしやすいため、さし餌に

も一苦労です。また、いくら小さくても本能的に人の目を狙って攻撃してくることがあるので、注意しながらさし餌を行う必要があります。

なお、後日行われた総会では急遽サギのエサにするドジョウを購入するため寄付を募らせていただき、大変多くの方々のご協力くださいました。本当にありがとうございました。

これまた別の日、会員数名が現地を見に行ったところ、高木にはまだ残った巣もちらほら見え、落ちずに耐えたヒナたちを育てる親鳥たちも見られました。しかし、その傍らではやはり台風のせいなのかヒナが死んでいたり、巣内ヒナがうろろうしていました。うろろうしているヒナたちの中には元気な様子の子も見られ、ちゃんと親からエサをもらえてるようでした。



<残った巣>

8月中旬、保全センターで生き残ったヒナたちはどんどん成長していき、現在は鳥カフェにて放鳥の練習中です。



<飛行練習中のヒナたち>

しかし、今回のサギたちは本当に保護すべきであったのでしょうか？

倫理的に考えてみれば、生きたいと願っている命を目の前にして置き去りになんてできないと思います。ただ、今回のサギの大量保護の原因では直接人が関わっていたわけではありません。確かに異常気象が騒がれるこの現代において、台風4号をもたらしたのは人間のせいかもしれません。でもこれはあくまで自然に起こったこととしてとらえるべきであり、自然に任せるべきことだったのかもしれない。

野生動物を保護するという事は、時に難しい問題でもあります。目の前で怪我をしていたとはいえど特定外来種だったら？有害駆除対象となっていたら？タカやカラス、ネコに食べられそうになっていたら？どこから見て正解不正解をつけにくい、いや、誰もそんなことつけられない問題です。



<巣から落ちても逞しく生きるヒナ>

このような時、あなたならどのように考え、どのように行動しますか？？

※法律で特定外来種や有害鳥獣の取り扱いが決まっています。

また、本文は今回の件を否定するものではなく、様々な人に「救護」について考えていただきたく書いたものです。

PROJECT WILD

環境教育を学ぶ！

生き物を通じて環境を学ぶ「プロジェクト・ワイルド」という環境教育プログラムの指導者「エデュケーター」という資格を取得したボランティアからの紹介です。普段のボランティア活動においてご参考になれば幸いです。

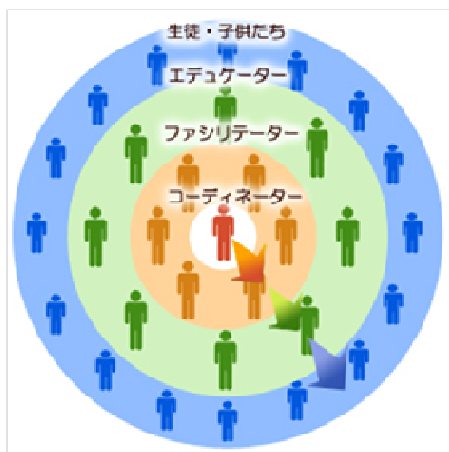
いざ Project WILD 体験へ

2012 年ゴールデンウィーク後半。私は岐阜県加子母町にいた。旅の目的は環境教育の資格を取ること。NPO 法人 JUON(樹恩)による、複数の環境教育指導者の資格が取れる合宿に参加した。そのうち Project WILD のエデュケーター(一般指導者)という資格について本稿では紹介する。

Project WILD について

プロジェクト・ワイルドはアメリカにて開発された、環境教育を行うためのプログラム。1983 年に米国環境教育協議会などが中心となって始まった。それ以来、各州の教育者や NPO/NGO 団体により活用され、常に改善を経て今の様な形になってきた。プロジェクト開始以来、100 万人以上のエデュケーターが WILD のワークショップに参加し、その方々が教育した子供は 5300 万人以上にのぼる。

日本では 1999 年に導入されて以来、約 2 万人のエデュケーター、500 名以上のファシリテーターが登録されてきた。「コーディネーター」が「ファシリテーター」を、ファシリテーターが「エデュケーター」を指導する。今回私が取ったのがエデュケーターという一番初歩の資格。



図：プロジェクト・ワイルドのシステム

エデュケーターになる

エデュケーターになるためには、所定時間のトレーニングを受ける。トレーニング内容の中心は、実際に子供たちに教えることになるアクティビティの実践。やってみると、とにかく楽しい！一例として「Freeze」という、動物版の氷鬼を右記に紹介する。

他にも実際に子供相手のアクティビティを組む際の安全管理について学んだり、自分でアクティビティを教科書から選んで他の参加者相手に実施してみたりと、充実した一日がアツという間に終わった。

非常に好きだと思ったのが、「What to think (何を考えるか)」ではなく「How to think (どのように考えるか)」という体験学習法。正答よりも答えにたどり着くまでの過程を大事にして引き出せるよう、新米エデュケーターは今日も頑張る！



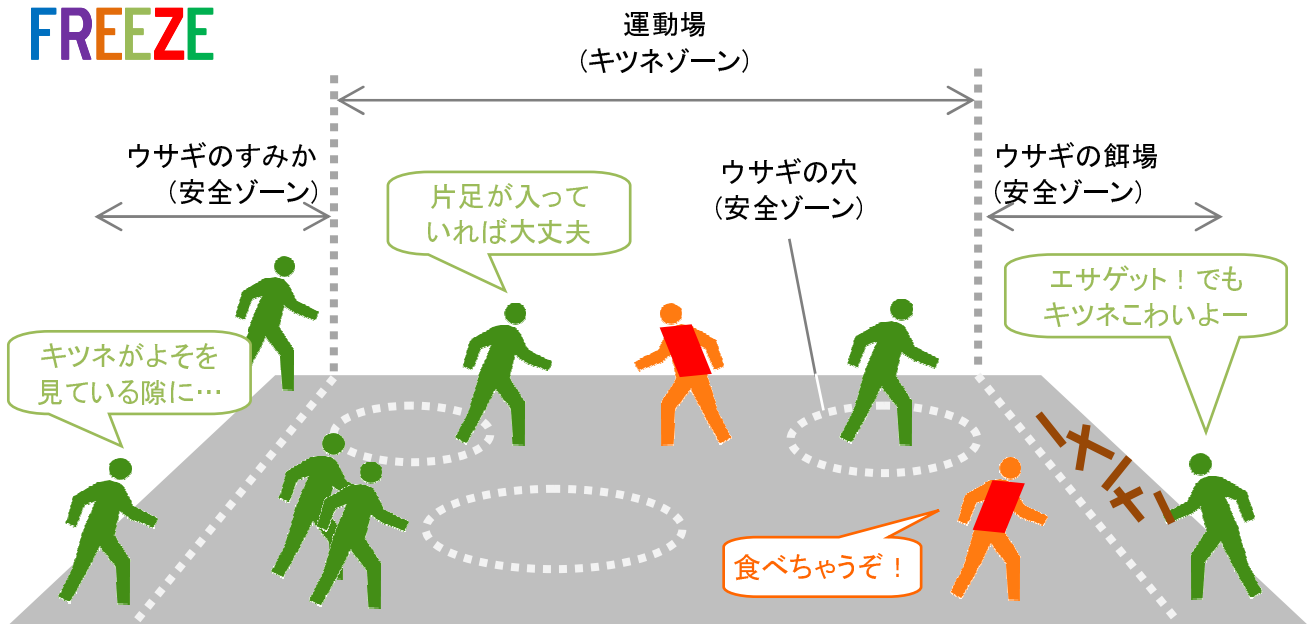
写真：講習風景

参考ウェブサイト

1. Project WILD (English)
<http://www.projectwild.org/>
2. プロジェクト・ワイルド(日本事務局)
<http://www.projectwild.jp/>
3. NPO 法人 JUON(樹恩)
<http://juon.univcoop.or.jp/>

PROJECT WILD アクティビティ紹介

FREEZE



[解説] 捕食者と被食者(この場合はキツネとウサギ)になりきって行う氷鬼。ウサギはすみかから餌場まで3往復しないと、生き延びられずに次の回にキツネとなる。キツネはウサギを3匹以上捕まえないと生き延びられず次回ウサギとなる。何回か繰り返すと、捕食者と被食者の生態の理解につながる。

これであなたもバイオリンガル!?

(生態系・動物に関するワンポイント英語レッスン)

今日のことば: **raccoon dog** (タヌキ)

最初の巻き舌が難しければ「ラ」でも通じます! それにしても、直訳するとアライグマ犬ですよ…^^;

こんな感じで発音してね

Ra **ク**ーンダッグ



▶環境教育に関するイベントのご紹介

子ども・若者と自然のフォーラム

～海の知恵・山の知恵・人の知恵～

自然体験活動が自己肯定感・独立心・社会性を持った子ども・若者を育てることを講演やパネルディスカッションを通じ紹介します。また、どうすれば子ども・若者が自然体験をおこないやすい環境づくりができるかを話し合います。

- 📍 主催: 神奈川県立青少年センター
- 📍 日時: 平成24年10月21日(日)12:00~16:30
- 📍 内容: 12:00~16:30 自然体験活動や環境保全活動を進める団体の活動紹介 [場所: ホワイエ]
13:00~16:10 C. W. ニコル講演会「森から見た未来」 [場所: ホール]
歌・メッセージ ミュージシャン 白井貴子
パネルディスカッション「自然体験活動をすすめるには」
- 📍 参加費: 無料
- 📍 申込み: 電話で10/16(火)までに青少年センター指導者育成課へお申し込み下さい。
- 📍 場所: 神奈川県立青少年センター [〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘9-1 電話 045-263-4466]

インフォメーション

イベント・研修会

◆ボランティア講習会修了式

▽日時 9/29(土) 13:00~

▽場所 自然環境保全センター

☆今年度の新人研修を終えた新規

登録ボランティアさんの修了式です。

◆平成24年度第1回 ボランティア研修会

▽日時 9/29(土) 14:00~16:00

▽場所 自然環境保全センター

☆「野生動物救護ボランティアについてみんなで考えよう」

ボランティアの実際のこと、みんなで考えてみませんか？

◆ジャパン・バード・フェスティバル(JBF)

▽日時 11/3(土)、4(日) ▽場所 千葉県我孫子市手賀沼周辺

☆鳥をテーマにした日本最大級のイベントです。様々な団体による楽しい催しがメジロ押し。もちろん救護の会も出展します。当日参加してくれるスタッフも募集します。奮ってご参加を！

詳しい情報は→<http://www.birdfesta.net/>

◆保全センター大掃除 & 豚汁大会

▽日時 12月中旬予定 ▽場所 自然環境保全センター

☆年末恒例！今年もみんなで保護動物たちの為にセンターをピカピカにしましょう。

お昼に味わう温かい豚汁は絶品ですよ♪一人でも多くのご参加をお待ちしています。

午後は 日本鳥類保護連盟の藤井幹氏の講演と救護の会会員の安井氏によるフクロウの調査報告会を予定しています。



講演会

◆第2回 ABiCo ~Asia Birds Convention~

▽日時 11/4(日) 13:00~17:00 ▽場所 アビクオーレ(JR我孫子駅南口 徒歩 60 秒)

☆当会 理事長の渡辺が「自然に帰す 保護された猛禽たちの野生復帰までの道のり」という題目で講演します。

衝突調査

◆秦野市立図書館衝突調査

▽日時 毎月最終金曜日 → 今後の調査日(予定)は 9/28、10/26、11/30、12/21

▽場所 秦野市立図書館

☆野生動物救護の会「バードストライク研究会」では窓ガラスへの野鳥の衝突調査を一緒に行ってくれる方を随時募集しています。興味のある方は事務局までご連絡を！

* 詳細は当会ホームページをご覧ください *

☆☆会員へのお誘い☆☆

当会は、ボランティアスタッフの協力と設営趣旨にご賛同いただきました

皆様方の寄付によって運営されております。

私たちの活動を支えてくださる賛助会員も同時に募集しています。

★一般会員:どなたでもご参加いただけます(年会費 2,000 円)

★学生会員:学生の方(年会費 1,000 円)

★賛助会員:当会の活動にご賛同いただき寄付をいただいた方

年会費:法人一口 5,000 円 個人一口 3,000 円 一口以上

【振込先】

ゆうちょ銀行振替口座 : 00270-0-47040

名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月:2012年9月 発行:特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話:0463-75-1830

〒259-1306 神奈川県秦野市戸川 1086 番地の 4 ホームページ:<http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>

編集者 表紙絵:田島美和 総会報告:峰巍 今日の RUNNER:松本卓巳 活動の現場から:平沼亜矢子

ボランティア雑感:塩澤直美 保護鳥獣が示す症状:福富潤 ランナー通りの住人たち:高橋恵

Project WILD:武田智子 インフォメーション:神崎さつき